

東日本大震災等における 令和5年度 東京都支援活動報告書

13年目の記録



令和6年3月



東京都

はじめに

東日本大震災から 13 年が経過しました。

都は、発災後直ちに、警察・消防職員、医療救護班や保健師、応急給水のチームをはじめ、人命の救出救助、医療、施設の応急復旧、避難所運営など、あらゆる業務を担う多くの職員を派遣しました。本格的な復旧・復興に移行した後も、被災地のニーズを踏まえつつ、専門知識や行政経験を有し、高い志を持った職員を継続して派遣してきました。

派遣職員も含めた被災地の努力が実を結び、住まいの再建や公共インフラの整備が概ね完了するなど、復興は大きく進展しました。様々な困難を乗り越え、復興に向けて力強く歩む被災地の姿は、復興オリンピック・パラリンピックと位置付けた東京 2020 大会における様々な取組などを通じて、支援への感謝とともに世界中に発信されました。

一方、未だに避難生活を余儀なくされている避難者へのケアや、本格的に始まった原子力災害からの復興など、被災地が解決すべき課題は依然として残されています。加えて近年、地震や風水害などの大規模災害が頻発する中、東日本大震災以外の災害も含め、復興を担う職員の派遣は被災地の強いニーズとなっています。

こうした中、都は、令和 5 年度には、福島県、石巻市（東日本大震災）及び熊本県（平成 28 年熊本地震）に対し、13 名の職員を派遣しました。

また、令和 6 年 1 月に発生した能登半島地震は、甚大な被害をもたらしており、都は、1 日でも早い被災地の復旧・復興に向けて様々なニーズに応じた支援に取り組んでいます。

本書は、この 1 年間被災地で様々な復興事業に従事した派遣職員の業務の内容や成果に加え、直面した困難を乗り越えるための苦労や工夫、業務を通じて得られた知識や教訓等多岐にわたり、示唆に富むものとなっています。

本書を通じ、大規模災害や都の被災地支援の取組について理解を深め、日頃から災害について考え、備えるきっかけとして御活用いただければ幸いです。

令和 6 年 3 月

総務局復興支援対策部

本報告書は、原則として、派遣職員が被災地支援の業務を通じて直に体験し、考えたことをそのまま掲載しています。

INDEX 目次

第1部 職員派遣（東日本大震災）

技術系職員

道路・河川等	福島県	相双建設事務所 復旧・復興部道路・橋梁課	齋藤 修	P.6
下水道事業	石巻市	建設部下水道建設課	小形 浩二郎	P.9

事務系職員

復興計画等	福島県	企画調整部避難地域復興局 避難地域復興課	関根 貴広 滝澤 昌平	P.13
産業再生等	福島県	商工労働部経営金融課	平野 勝長	P.20
		商工労働部雇用労政課	松林 美早	P.24
		農林水産部農産物流通課	金井 慎太郎 蜂谷 りり	P.28
避難者支援	福島県	企画調整部避難地域復興局 生活拠点課	小泉 建次郎	P.33
		企画調整部避難地域復興局 避難者支援課	廣澤 行洋	P.37
医療人材確保 支援等	福島県	保健福祉部医療人材対策室	吉田 有輝	P.42
遺児孤児支援等	福島県	保健福祉部こども未来局 こども・青少年政策課	長濱 友理	P.47

第2部 職員派遣（平成28年熊本地震）

区画整理	熊本県	県央広域本部土木部 益城復興事務所	須藤 和哉	P.52
------	-----	----------------------	-------	------

第3部 現地事務所等

東京都被災地支援	福島県事務所	美舟 隆之	P.58
東京都総務局	復興支援対策部 被災地支援課	五十嵐 修	P.67

表紙について



日和山より望む完成した
石巻中央排水ポンプ場（石巻市）



浜街道バイパス道路工事
（角部内工区：福島県）



新阿蘇大橋（熊本県）



令和5年4月1日に避難指示が解除された
富岡町夜の森地区の桜並木（福島）



【魅力発信のパンフレット】
（福島）



信夫山から望む福島市内の景色
（福島）



夏の大内宿（福島県）



観音寺川の桜（猪苗代町：福島）



景勝地「塔のへつり」（福島）